

科目名 医療人間学

1 単位 30時間 夜間部 1 年 後期 担当講師 中村 一志

教育目標

診療放射線技師として、他の医療職者と協調しながら、患者さんに利益を与えることを教授する。

☆医療の担い手に相応しい「思いやり」「言動・行動」の実践能力。

☆医療人としてのコミュニケーション能力。

☆患者さんの権利、心理を学び、ペイシェントケアの実践能力。

使用教材 配布プリント「テキスト 医療人間学」

出欠確認方法 点呼 試験 有 評価方法 試験、出席、その他（提出文、学習意欲、学習態度などを考慮）

授業概要（前期）

- 1回 ガイダンス、挨拶
医療人間学概論、お辞儀と挨拶
- 2回 社会との接点
Plan-do-see、現在の医療。医療人としての社会人間学など
- 3回 技師としての心構え
胸部X線写真、ICT(情報通信技術)、患者とは？健康とは？
- 4回 Case study
実例を挙げチームで研究し発表する
- 5回 コミュニケーション
言葉、ボディランゲッジ、痛みのオノマトペ、クッション言葉
- 6回 実践「話し方教室」
表情筋、呼吸筋、胸式呼吸、腹式呼吸
- 7回 生涯健康科学
幼・少年期、青年期、成人期、高齢期の特徴を理解する
- 8回 法令順守
法規、インフォームドコンセント、モラル、社会的制裁
- 9回 放射線技術科と診療科
放射線技術科(室)、内科、外科、整形外科、歯科など

- 10回 患者学 I
患者の権利、プライバシーの保護、ペイシェントケアなど
- 11回 患者学 II
患者の心理(心の葛藤、不安など)に共感する
- 12回 緊急時対応 I
災害時対応
- 13回 緊急時対応 II
救急室および検査・治療中の緊急対応
- 14回 Case study
実例を挙げチームで研究し発表する
- 15回 チーム医療、まとめ
チーム医療、自己学習、生涯学習を理解する。総まとめ

【実務経験】

診療放射線技師として総合病院、企業内診療所にて44年間の実務経験があり、診療、撮影技術、装置、EBM、チーム医療、コミュニケーションを実践してきた。

また、企業内診療所にて28年間の経験がある。健康診断、アセスメント、コンプライアンス、ハラスメント防止、災害時対応を経験した。更に、企業のアナウンススクールにて、発声発音、姿勢、伝わる話し方、話し方の評価などを学んできた。

上記の経験を活かして、患者さんにとって「心地良い医療」となるように教授する。